

藝大プロジェクト 2022 第2回

能『土蜘蛛』・妖怪を舞う

# 大 鬼 行 夜 百 夜 云

2022 | 11 | 27 SUN

15:00 開演 (14:15 開場)

東京藝術大学奏楽堂 [大学構内]

| 主催 | 東京藝術大学演奏芸術センター、東京藝術大学音楽学部

| 助成 | 独立行政法人日本芸術文化振興会 文化庁  
【令和4年度日本博イノベーション型プロジェクト補助対象事業  
(東京藝大「I LOVE YOU」プロジェクト) 2022】



JAPAN CULTURAL EXPO

心を、うごかそう。  
Art Moves Us All.





## ご挨拶

日本人は、なぜこれほどまでに妖怪に魅せられるのでしょうか。

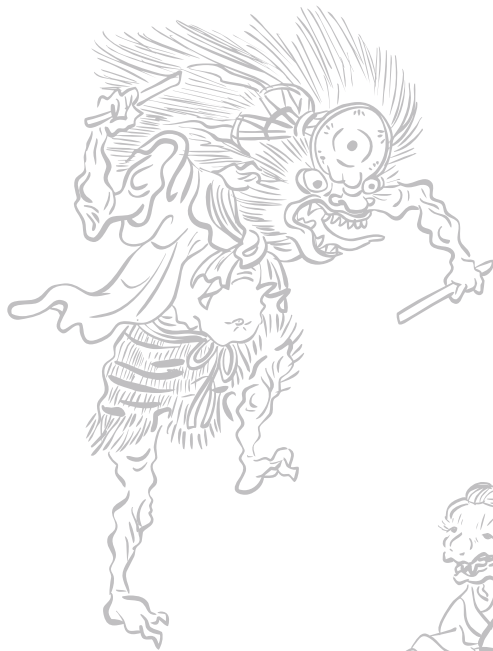
もののけが病気や死をもたらすとされた古代から、妖怪絵巻が人気を博した近世を経て、現代へ——その存在に決定的なポピュラリティを与えた水木しげるが、今年生誕100年を迎えました。

藝大プロジェクト2022「藝大百鬼夜行」では、芸術家にとっても創造の源泉であり続けた「この世ならざるもの」を紐解き、古今東西の魑魅魍魎にまつわる作品群を全3回にわたってご紹介いたします。

第2回では日本における妖怪を、「怨霊と鎮魂」を基本構造の一つとする能の世界の視点からご体験ください。文化人類学者・民俗学者で妖怪論の第一人者として知られる小松和彦さんをお招きしてのレクチャーに続いて、東京藝大の能楽観世流教員陣が演じる能「土蜘蛛」をノーカットでお届けいたします。

人類の想像力を巡る果てしない旅を、ぜひご一緒しましょう。

松岡あさひ（東京藝術大学演奏藝術センター准教授）



P R O G R A M

<第1部>

講演「能のなかの妖怪たち—『土蜘蛛』とその周辺—」

小松和彦 (国際日本文化研究センター名誉教授)

//// //// 休憩 (15分) //// ////

<第2部> 能『土蜘蛛』

藤波重彦 (能楽観世流) ほか



絵巻 土蜘蛛草子 (東京国立博物館) より

能の「土蜘蛛」は、演目の分類では切能、五番目物にあたり、内容的に言えば、能の「大江山」と同様、王権を脅かす妖怪を退治して王権の威勢盛んなることを、「土も木も、我が大君の国なれば、いづくか鬼の、やどりなる」と褒め称える祝福物で、典拠は、『平家物語』などに付載の「剣の巻」に収められている源氏重代の宝刀伝説のエピソードの一つ、源頼光一党による妖怪化した土蜘蛛退治譚である。

この粗筋は、次のようなものである。原因不明の病に罹った源頼光が、加持祈祷を頼んでも効果無く、ますます病が重くなったある夜更け、看病していた頼光配下の渡辺綱ら四天王が休み所に戻ったとき、燈火の影から身の丈七尺ほどの大柄な法師姿の者がするすると現れ出て、手にした索（綱）を頼光に投げかけた。驚いた頼光は、枕元の源氏重代の宝刀「膝丸」で斬りつけたところ、手応えはあったが、法師の姿はその場から消えてしまった。四天王が駆けつけて調べてみると、燈火のあたりから血こぼれが屋敷の外に続き、それを辿っていくと「北野」の大きな塚に至った。塚を崩すと、大きな山蜘蛛が出てきたので縛り上げた。頼光の病はこの蜘蛛の精が原因であった。そこでこの蜘蛛を串刺しにして河原にさらすことにした。以後、「膝丸」は「蜘蛛切」と改名した。

「剣の巻」に語られた土蜘蛛（山蜘蛛）が棲む「北野の古い塚」は、近世の「名所図会」などによれば、上京区一条七本松通の畑のなかにあった「蜘蛛塚」（別名・山伏塚）と、北野近くの船岡山の南西にあった「蜘蛛塚」（頼光塚）の二カ所が想定されていた。

また、話の内容は異なる、頼光たちが洛北の廢屋に出没する土蜘蛛を退治した物語絵巻『土蜘蛛草紙』でも、土蜘蛛の住処は「西の山」と語られているので、京都の人びとの脳裏に想起された土蜘蛛の塚は、やはり京都の町はずれ、洛中と洛外の境界域つまり異界との境界域を想定したものである。



串刺しにされた土蜘蛛『平家物語剣の巻』  
(国立国会図書館蔵)

しかしながら、能の「土蜘蛛」が特異なのは、粗筋はおおむね「剣の巻」に従いながら、その制作者の脳裏にあった「土蜘蛛の住処」が、北野や西の山あたりであったかということになると疑わしい。というのは、能の「土蜘蛛」では、正体を現した土蜘蛛の妖怪が、「汝知らずや、われ昔、葛城山に年を経し、土蜘蛛の精魂なり」と名乗っているからである。

この葛城山は、奈良県の南西部、大阪と和歌山の境域をなす山塊の主峰の一つで、とくに葛城山の東麓は土蜘蛛と縁が深い地域である。あまり知られていないが、山麓の葛城一言主神社の境内・参道には、三つの「蜘蛛塚」がある。これは神武天皇が退治した土蜘蛛を胴と頭と足の三つに



葛城山遠望



一言主神社本殿脇の土蜘蛛塚

切って別々に埋めた所だとされている。葛城山麓には他にも「土蜘蛛塚」が見出せる。葛城山は、役の行者ゆかりの修験道の聖地として知られているが、じつは、幾重にも重層した敗者の伝承をもった異界であった。

そもそも「葛城」という地名それ自体が土蜘蛛と関係している。『日本書紀』神武天皇即位前紀に、葛城山の麓の高尾張という村に土蜘蛛がおり、その人の風貌は、丈が短く手足が長く、侏儒によく似ている。神武軍が葛の網を作って土蜘蛛を襲い殺害した。これによって村の名を葛城に改めた、と記されている。すなわち、ここでは神武軍の抵抗勢力を「土蜘蛛」と総称し、その中に現在の葛城山東麓のあたりを拠点としていた先住勢力もいたのである。能の「土蜘蛛」の作者の脳裏に、こうした遙か昔の、天皇を中心とする勢力に制圧され賤称された「土蜘蛛」の記憶が呼び起こされていたのかもしれない。

ところで、その後の奈良盆地には、二つ「小国」（首長国）が存在していた。すなわち、盆地の北東地域を占めていた、神武神話を語る「倭国」と、その地域から「異界」とみなされがちであった、南西地域を占めていた「葛城国」である。葛城国の首長・葛城氏一族は、おそらく、「土蜘蛛」勢力とは異なり、倭国に従った在地勢力の子孫で、隣国の倭国と主に婚姻を媒介して安泰をはかっていたが、やがて力をつけた倭国によって衰退し、やはり在地の小豪族であった蘇我氏が勢力を伸ばし、倭国のもとで重要な地位を占めることになった。衰退・滅亡していったこの葛城氏が祀っていた神が、現在も地元の人びとによって山麓にひっそりと祀られている「一言主神」であつたらしい。これを如実に反映したものとして興味深いのが、『本朝神仙伝』などに見える、一言主神が役の優婆塞によって呪縛されたとする伝説である。

役の優婆塞とは、役の行者とか役小角とも称され、山岳修行の徒たちが組織した修験道においてその開祖とされた人物である。役の行者が、吉野山と葛城山の間には橋を架けようと鬼神たちを使役した。そのなかに鬼神に零落した一言主神がいた。おそらく衰退した葛城氏とともに零落したのであろう。一言主は、鬼神を酷使する役の行者を恨んで、天皇に役の行者には謀反の心あり、と訴えた。これに怒った行者が、一言主神を呪縛して、谷底に置き去りにした。このため、呪縛から逃れたい一言主神の唸り叫ぶ声がいまだ絶えないという。

能に「葛城」という演目がある。一言主神が、通りかかった山伏に、役の行者の法力により葛葛で縛られて苦しんでいることを明かし、祈禱によってこの苦しみから解放して欲しいと頼む話である。

こうした伝承類を知ると、上述の「土蜘蛛の精魂」には、呪縛され苦しんでいる一言主神、言い換えれば葛城氏らの怨念、さらには能のもとである猿楽の徒の思いなども託されていたのかもしれない。妖怪を退治して王権を祝福するめでたい作品である「土蜘蛛」に、敗者たちの歴史、彼らの怨念や悲しみの記憶が隠されていることを読み解くことで、この演目の意義がいっそう深まるはずである。



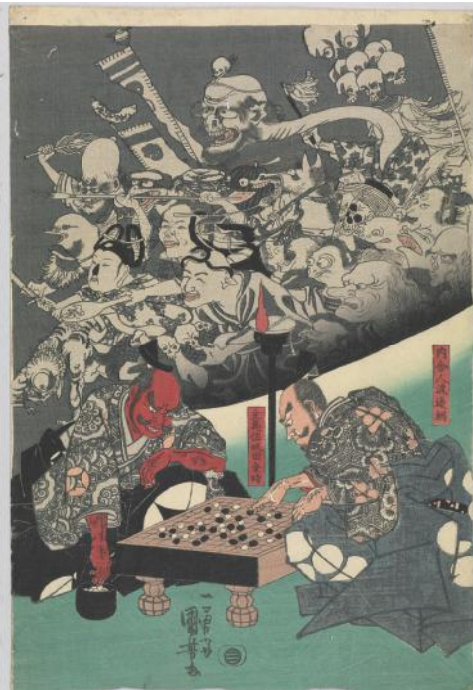
# 浮世絵に見る 「土蜘蛛」たち

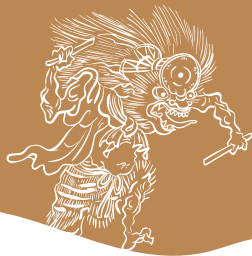
[左上] 新形三十六怪撰 源頼光土蜘蛛ヲ切ル図 月岡芳年 (1892年)  
糸を吐き襲い掛かる土蜘蛛に対して、頼光が名刀・膝丸で斬りつけようとしている。

[右上] 源頼光公館土蜘蛛作妖怪図 歌川国芳 (1843年)  
病に伏せる頼光を襲う土蜘蛛。国芳による本作ではユーモラスな雰囲気すら漂わせている。

[下] 頼光四天王土蜘蛛退治 勝川春亭 (1810-17年頃)  
頼光四天王 (渡辺綱、坂田公時、碓井貞光、卜部季武) に独武者・平井保昌を加えた五人が、大捕物を展開している。







# PROFILE



## 小松 和彦 Kazuhiko Komatsu

国際日本文化研究センター名誉教授

1947年、東京都生まれ。東京都立大学大学院博士課程修了。信州大学助教授、大阪大学助教授及び教授を経て、国際日本文化研究センター教授・同所長を務め、現在は、同名誉教授。京都先端科学大学特別招聘客員教授。専門は文化人類学・民俗学。長年、日本の怪異・妖怪文化研究を牽引してきた。主な著書に、「いざなぎ流の研究」（角川学芸出版）、「憑霊信仰論」「妖怪学新考」「日本妖怪異聞録」（以上、講談社学術文庫）、「妖怪文化入門」「神隠しと日本人」「異界と日本人」「鬼と日本人」（以上、角川ソフィア文庫）、「百鬼夜行絵巻の謎」（集英社新書）、「神になった日本人」（中公新書ラクレ）など多数。2013年、紫綬褒章受章。2016年、文化功労者顕彰。



前島吉裕撮影

## 藤波 重彦 Shigehiko Fujinami

東京藝術大学准教授／能楽観世流

シテ方観世流。シテ方観世流能楽師の故・藤波重満（東京藝術大学名誉教授）の長男。父および二十六世観世宗家・観世清和に師事。「鶴亀」で初舞台。1985年「猩々」で初シテ。以後、「石橋」「乱」「道成寺」「砦」「望月」「安宅」「隅田川」などを披演。慶応義塾大学および東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。同非常勤講師を経て2019年より准教授。公益社団法人能楽協会理事、一般社団法人観世会理事、重要無形文化財総合指定保持者。「藤波能の会」を主宰。海外公演歴も多数ある中、2012年には、藝大が招聘され英国オックスフォードの聖バーソロミュー教会で催された能「隅田川」と、それに題材を得て作曲されたブリテンのオペラ「カーリヤー・リヴァー」の同時上演公演に参加。

### ●●●● スタッフ ●●●●

| 照明 | (株)シグマコミュニケーションズ

| 音響・収録 | 東京藝術大学音響研究室

| 舞台監督 | 増田一雄

| ステージマネージャー | 小宮山雄太、杉山栄

| チラシ・プログラムデザイン | 水本紗恵子

| 広報 | 阿南一徳

| 制作 | 演奏藝術センター（楠田健太、松岡あさひ）





# 番能組

ツレ (源頼光) 清水 義也

トモ (頼光の従者) 新江 和人

ツレ (胡蝶) 金子 聡哉

シテ (僧・土蜘蛛の精) 藤波 重彦

## 土蜘蛛

ワキ (独武者)

殿田 謙吉

ワキツレ (独武者の従者) 大日方 寛

ワキツレ (独武者の従者) 小林 克都

間 (独武者の手下) 野村 裕基

後見

野村 昌司

上田 公威

地謡

後藤 眞琴

田口 亮二

梅若 志長

下平 克宏

鎌本 嶺貴

浅見 重好

大槻 崇充

青木 健一

大鼓

柿原 弘和

太鼓

林 雄一郎

小鼓

飯田 清一

笛

藤田 貴寛



# 「土蜘蛛」見所

藤波 重彦 (東京藝術大学准教授/能楽観世流)



## あらすじ

時は平安の世。病に苦しむ源頼光を、典薬の頭からの薬を携え胡蝶が見舞う。胡蝶と入れ替わりに見舞に来たのは怪しげな僧。言葉をかけながら近づき、千筋の糸を投げ掛け頼光を襲う。化生の者と見るや頼光は枕元の名刀・膝丸にて切りつけるが、僧はそのまま姿を消す。騒ぎを聞きつけ馳せ参じた独武者。化生の者が流した血の跡を辿り棲み処を捜し出すが、その塚の中には恐ろしい土蜘蛛の精魂が...

千筋の糸を投げ掛ける醍醐味。頼光の病床や土蜘蛛の塚などの作物、多くの登場人物。写実に徹した異色の能。

## 鑑賞の手引き

本日は能楽堂ではないので、ステージ上に仮設の能舞台が設えられています。

囃子方・地謡が登場し座着くと、ワキ座(舞台上手)に一畳台が置かれ、頼光の寝床を表します。従者を連れ登場した頼光は台の上で安座し、床几に手をかけ、掛け衣をかけられ、病床に臥している態となります。典薬の頭からの薬を携えて胡蝶が見舞に来ますが、頼光は「今は期(ご・最期の意)を待つばかりなり」と終始弱気です。様々に慰めの言葉をかけ胡蝶は退出しますが、入れ替わりに今度は怪しげな僧が頼光を見舞います。「我が背子が来べき宵なりささがにの蜘蛛のふるまいかねて著しも」という古歌を口ずさみ頼光に近づき、千筋の糸を投げ掛け襲います。頼光も枕元の名刀「膝丸」にて切り返し、傷を負った化生の者はそのまま逃げ去ります。(中入)騒ぎを聞きつけ馳せ参じた独武者に、頼光は腰を下ろし一部始終を語り聞かせます。傷を負わせた折の血痕が点々と続いていることに気づいた独武者は、これを辿って退治する覚悟を決め、独武者、頼光とも退場し、一畳台も引かれ間狂言の立ち喋りとなります。間狂言も引き、山の作物が大小前(舞台中央奥)に出され、場面変わって山奥の土蜘蛛の棲み処が舞台となります。従者を引き連れた独武者が登場し、塚に向かって対峙していると、やがて引き回しが下ろされ、蜘蛛の巣の奥に恐ろしい土蜘蛛が姿を現します。塚から出た土蜘蛛は独武者等に蜘蛛の巣を投げ掛け、凄まじい戦いとなりますが、ついには土蜘蛛は退治されてしまいます。

土蜘蛛といえば投げ巣にばかり目がいきますが、受けて立つ頼光や独武者の太刀捌きにも注目してください。実際に巣が掛からなくても掛かっているように見えるから不思議ですね。また退治された土蜘蛛はそのまま塚の中に隠れたり、切戸口から素早く退場したり、何通りか「いなくなった」という表現がありますが、独武者たちに前後を挟まれて並んで退場する演出もあります。首を落とされているはずなのに、何となく捕まってしょげているようにも見える演出は、能ならではの懐の深さだと思います。



土蜘蛛 藤波重彦  
前島吉裕 撮影

# 藝大プロジェクト 2022 藝大百鬼夜行

## 藝大百鬼夜行 第1回

荒俣宏・小室敬幸の妖怪藝術大学

2022.10.16 (日) 15:00開演 (14:15開場)

<第1部> 日本人と妖怪

<第2部> 西洋の作曲家と妖怪

ナビゲーター：荒俣宏 (博物学者・小説家・翻訳家)

小室敬幸 (音楽ライター)

出演：川嶋信子 (薩摩琵琶)、松井亜希・望月万里亜 (ソプラノ)

野口千代光 (ヴァイオリン)、山澤慧 (チェロ)

入川舜・田中翔一朗 (ピアノ)、本間雄也 (打楽器)



公演  
終了

## 藝大百鬼夜行 第3回

『兵士の物語』～悪魔に魂を売った者たち

2022.12.10 (土) 15:00開演 (14:15開場)

入場料 4,000 円 (全席指定)

東京藝術大学奏楽堂 [大学構内]

<第1部> トークインコンサート

曲目：パガニーニ：《「虚ろな心」の主題による序奏と変奏曲》

シュトックハウゼン：《ルツィファーの踊り》より〈舌先の踊り〉

リゲティ：《ピアノのためのエチュード 第13番「悪魔の階段」》

リスト：《メフィスト・ワルツ 第1番「村の居酒屋での踊り」》

ナビゲーター：川島素晴 (国立音楽大学准教授／作曲家)

出演：戸澤采紀 (ヴァイオリン)、丁仁愛 (ピッコロ)

大瀧拓哉・野原みどり (ピアノ)

<第2部> ストラヴィンスキー『兵士の物語』

出演：川村亘平齋 (影絵師)、志人 (語り部)

松原勝也 (ヴァイオリン)、赤池光治 (コントラバス)

サトーミチヨ (クラリネット)、岡本正之 (ファゴット)

栃本浩規 (ホルネット)、山下純平 (トロンボーン)

藤本隆文 (パーカッション)

藝大学生有志



チケット  
発売中



東京藝術大学



〔発行〕2022年11月27日(日)

〔制作〕東京藝術大学演奏藝術センター(発行人 阿南 一徳)

〒110-8714 東京都台東区上野公園12-8 TEL:050-5525-2300

〔編集〕東京藝術大学演奏藝術センター(楠田 健太)

〔デザイン・レイアウト〕東京藝術大学演奏藝術センター(水本 紗恵子)

※事前の承諾なく転載・複製・改変等の二次使用をすることを固く禁じます。